



株式会社セック

Systems **E**ngineering **C**onsultants Co.,LTD.

<https://www.sec.co.jp/>

銘柄コード：3741

2022年3月期 第2四半期決算 説明資料

2021年11月25日

<目次>

- 事業分野
- 第2四半期決算概要
- 通期業績見通し
- 注力分野の状況 (IoT・AI・ロボット)

事業分野 (BF)

社会の安全と発展に、かけがえのない一流のソフトウェア会社となる

社会の安全 (社会インフラ)

社会の発展 (夢の追求)

社会基盤システム

高度交通システム、防衛、医療、環境エネルギー、官公庁向けシステムなど社会公共性の高い分野のシステムを開発



宇宙先端システム

科学衛星や惑星探査機の搭載システムなど宇宙天文分野、ロボットやAIなど先端分野のソフトウェアを開発



モバイルネットワーク

キャッシュレス決済端末や車載端末などモバイルデバイスを使ったサービスシステム、次世代技術を使ったエッジデバイスのソフトウェアを開発



インターネット

非接触IC搭載ソフトウェア、IoT関連技術、AR・VR・MRなどのリアリティ技術、クラウドシステムなどを開発



リアルタイム技術が得意とする分野

世の中をもっと便利に、安全にするソフトウェアを開発

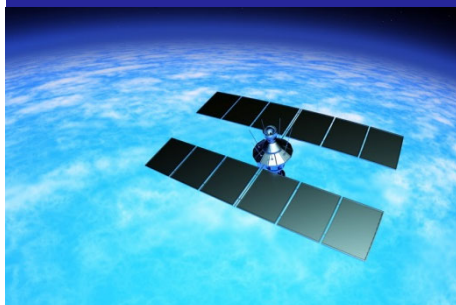
高度交通システム、防衛関連システム、医療関連システム、
環境エネルギー関連システム、位置情報管理システム、官公庁向けシステムなどを開発しています。



人類の夢を叶えるソフトウェアの開発に挑戦

科学衛星や惑星探査機の搭載システム、観測データ解析システムなどの開発と、次世代ロボットに関する研究開発、サービスロボットシステムの開発をしています。

衛星搭載システム
(ひので、はやぶさ2など)



スペースデブリ除去衛星
(フライト制御ソフト開発)



国際宇宙ステーション
「きぼう」日本実験棟実験装置



天体望遠鏡制御システム
(すばる望遠鏡など)



ロボット標準化技術
(RTモデルウェア、ROS)



車両自動走行



自動制御ソフトウェア
(船舶、ドローン、トラクター)



研究機関向けシステム
(NICT、JAXA、大学など)



次世代のエッジデバイスと IoT のソフトウェア

キャッシュレス決済端末や車載端末などモバイルデバイスを使ったサービスシステム、IoT 関連システム、MR など次世代技術を使ったエッジデバイスのソフトウェアを開発しています。

モバイルデバイス搭載機能



非接触 IC 搭載
ソフトウェア



キャッシュレス
モバイル決済端末



車載インフォテインメント
ソフトウェア



IoT
暑熱作業リスク管理システム



IoT
海中資源管理



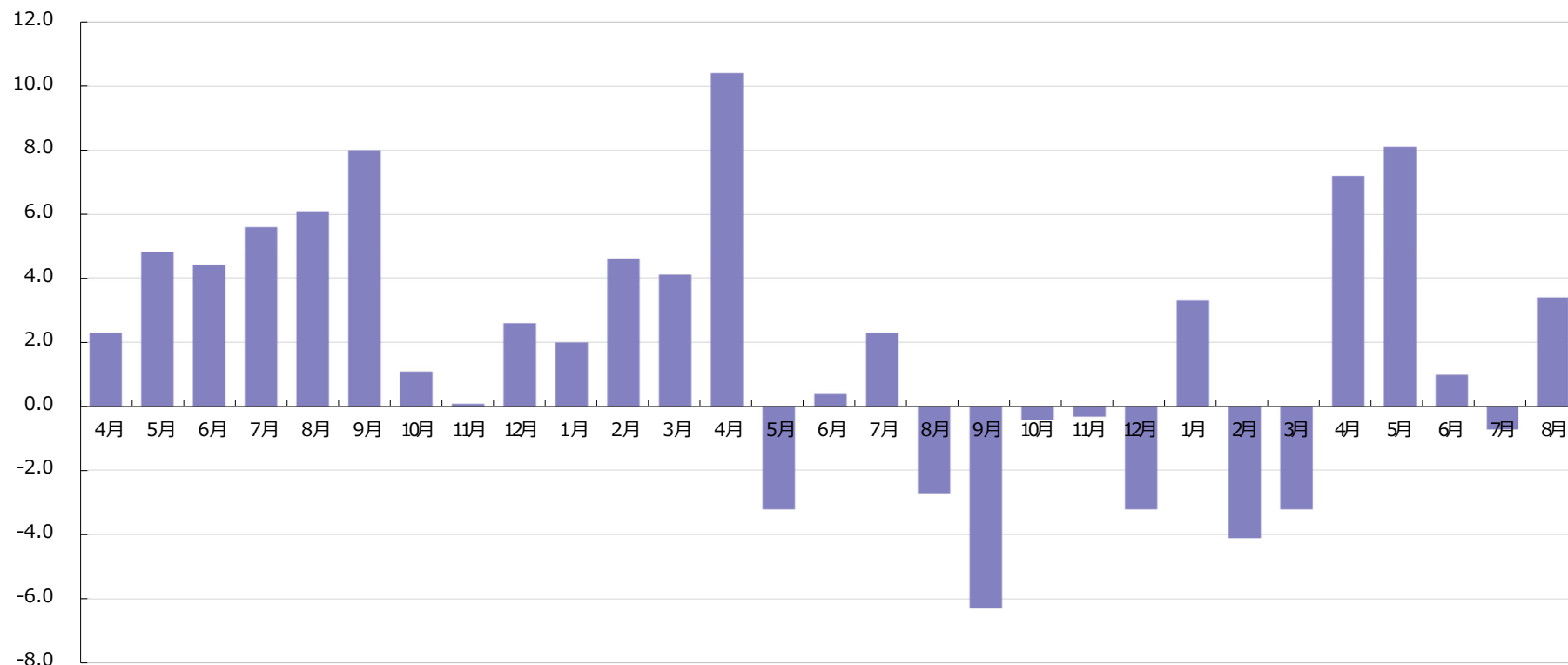
クラボウ Smartfit for work

2022年3月期第2四半期 決算概要

2022年3月期第2四半期の事業環境

情報サービス業売上高前年同月比推移（経済産業省：特定サービス産業動態統計）

単位：%



前年同月比の月別売上高は、2020年8月から減少傾向が続いていたが、4月以降は7月を除いて増加しており、新型コロナウイルス感染症による影響に下げ止まりの傾向が見られる。

2022年3月期第2四半期総括

売上高は過去2位、利益面は上場来3位、前年同期比で減収減益

売上高	: <u>2,897</u> 百万円	前期比	2.0%減		
営業利益	: <u>360</u> 百万円	前期比	5.0%減	利益率	12.5%
経常利益	: <u>381</u> 百万円	前期比	5.3%減	利益率	13.2%
当期純利益	: <u>267</u> 百万円	前期比	6.9%減		

受注高は過去4位、受注残高は過去最高

受注高	: <u>2,946</u> 百万円	前期比	8.3%減
受注残高	: <u>2,613</u> 百万円	前期比	0.4%増

先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

- 移動体通信事業者向けのサービス系の開発が大幅に減少し、官公庁向けの開発が増加するなど、需要構造の変化が継続した。
- 当第2四半期は、主要顧客である移動体通信事業者向けの開発が予想を上回って減少したため、需要構造の変化に対応しきれず減収減益となったが、下期に向け回復する見込みである。

第2四半期損益計算書

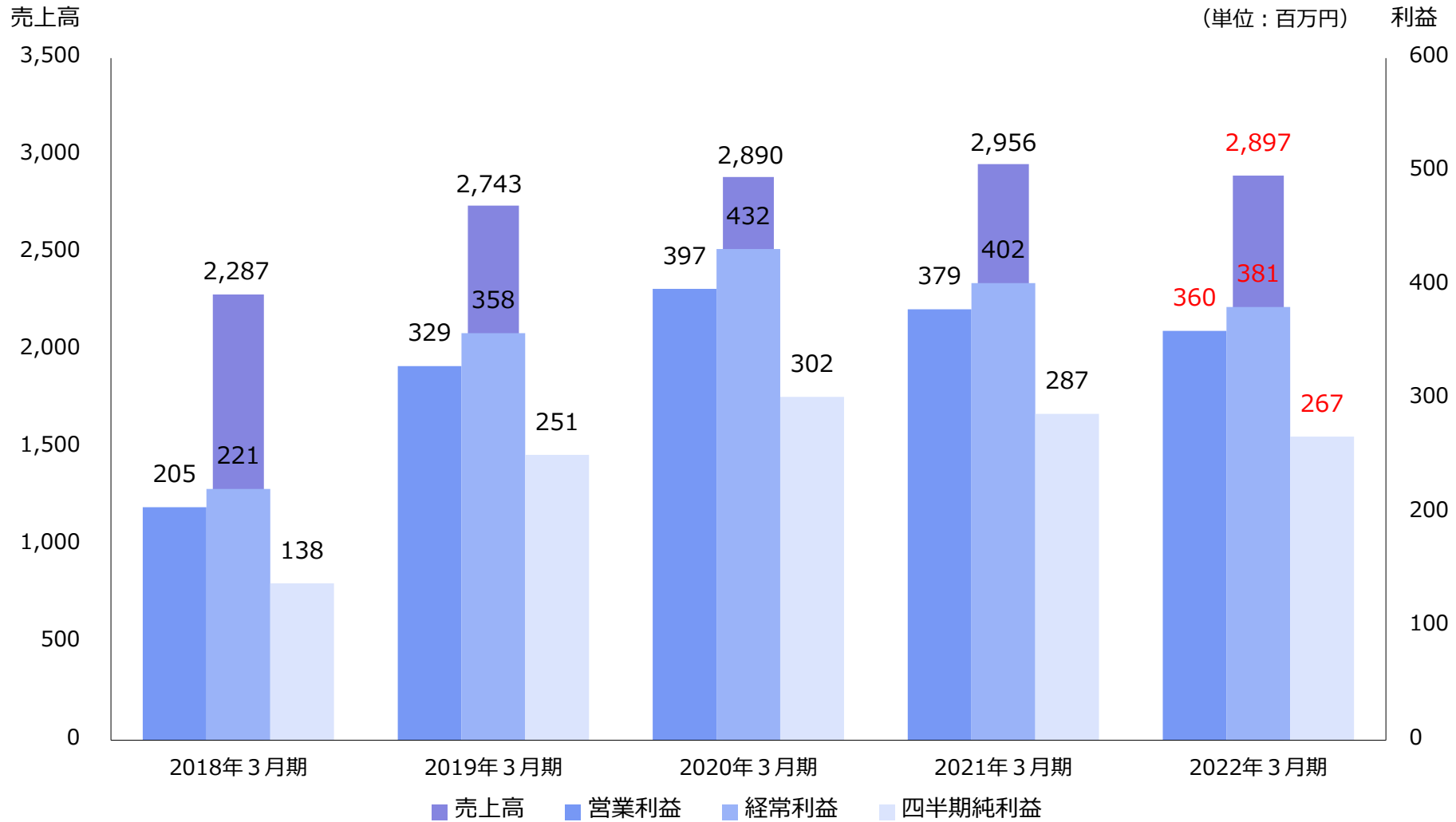
	2021年3月期第2四半期 (百万円)	2022年3月期第2四半期 (百万円)	前期比 (%)	期初予想 (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	2,956	2,897	98.0	3,000	96.6
売上原価	2,149	2,055	95.6	2,080	98.8
売上総利益	807	842	104.3	920	91.5
販売管理費	427	481	112.6	520	92.5
営業利益 (営業利益率)	379 (12.8%)	360 (12.5%)	95.0	400 (13.3%)	90.2
経常利益 (経常利益率)	402 (13.6%)	381 (13.2%)	94.7	420 (14.0%)	90.8
当期純利益	287	267	93.1	290	92.4

売上原価 外注費が減少 (外注費 8.5億円、前年同期比7.3%減、売上高外注比率29.4%、前期31.1%)

販売管理費 新入社員の増加、及びそれに伴う教育体制の強化により労務費が大幅に増加、研究開発費も増加
(研究開発費は28百万円で、前年同期比で21.2%増)

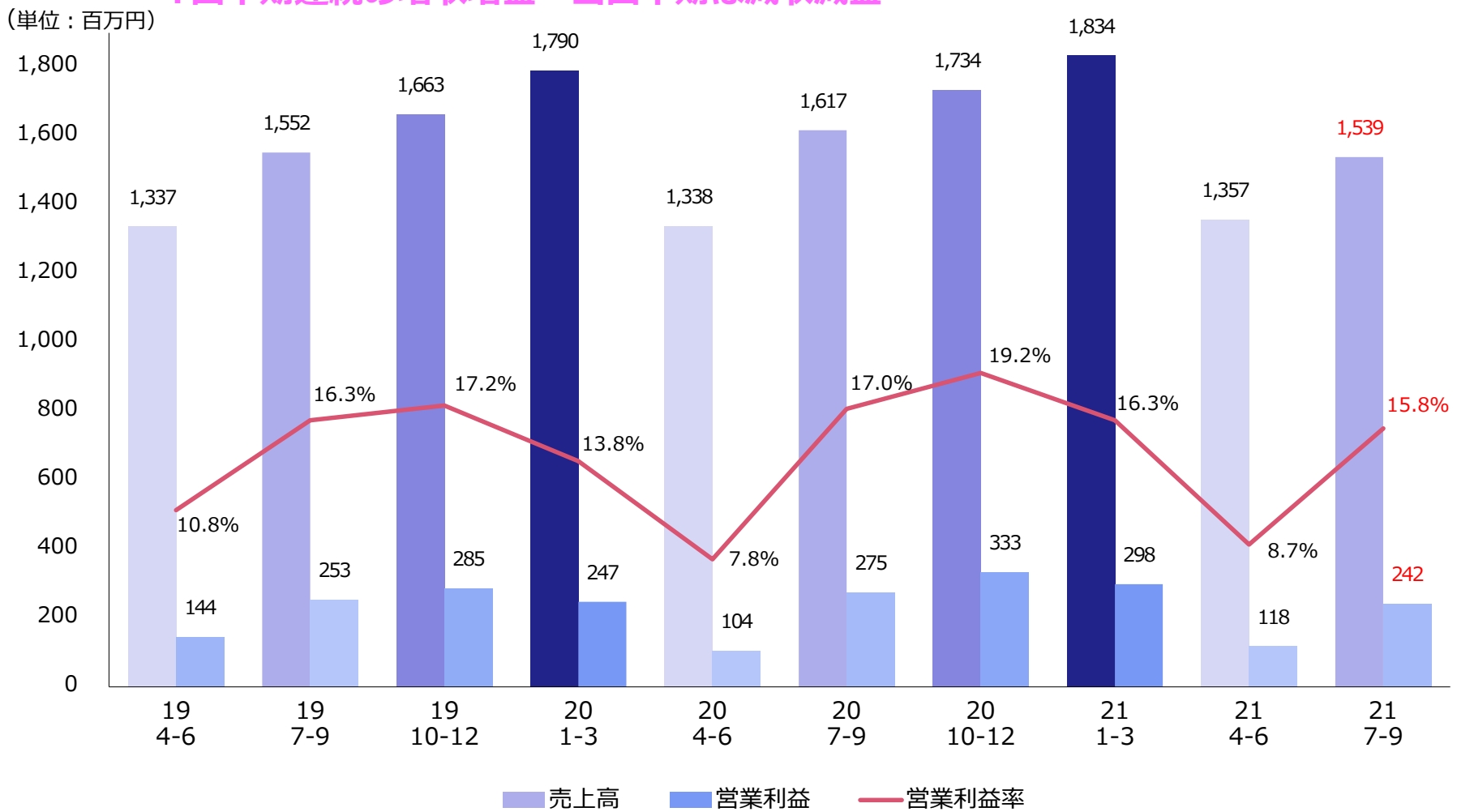
第2四半期決算業績推移（過去5年）

売上高は過去2位、営業利益、経常利益は上場来3位



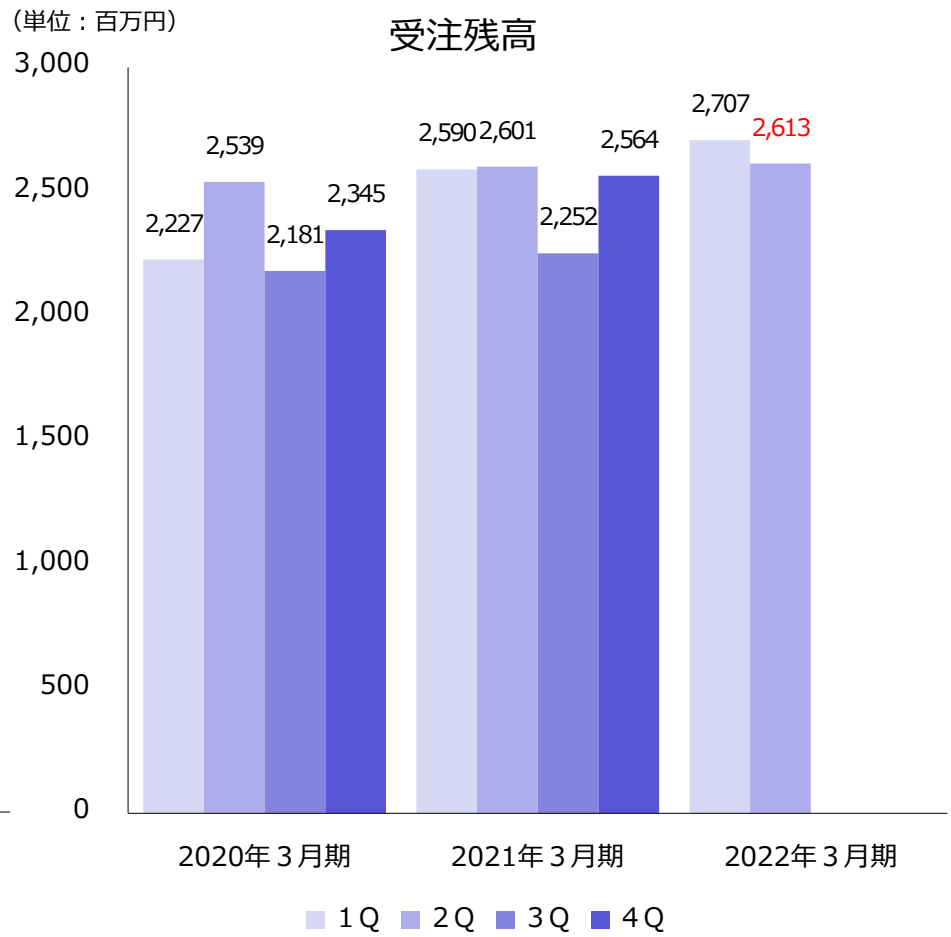
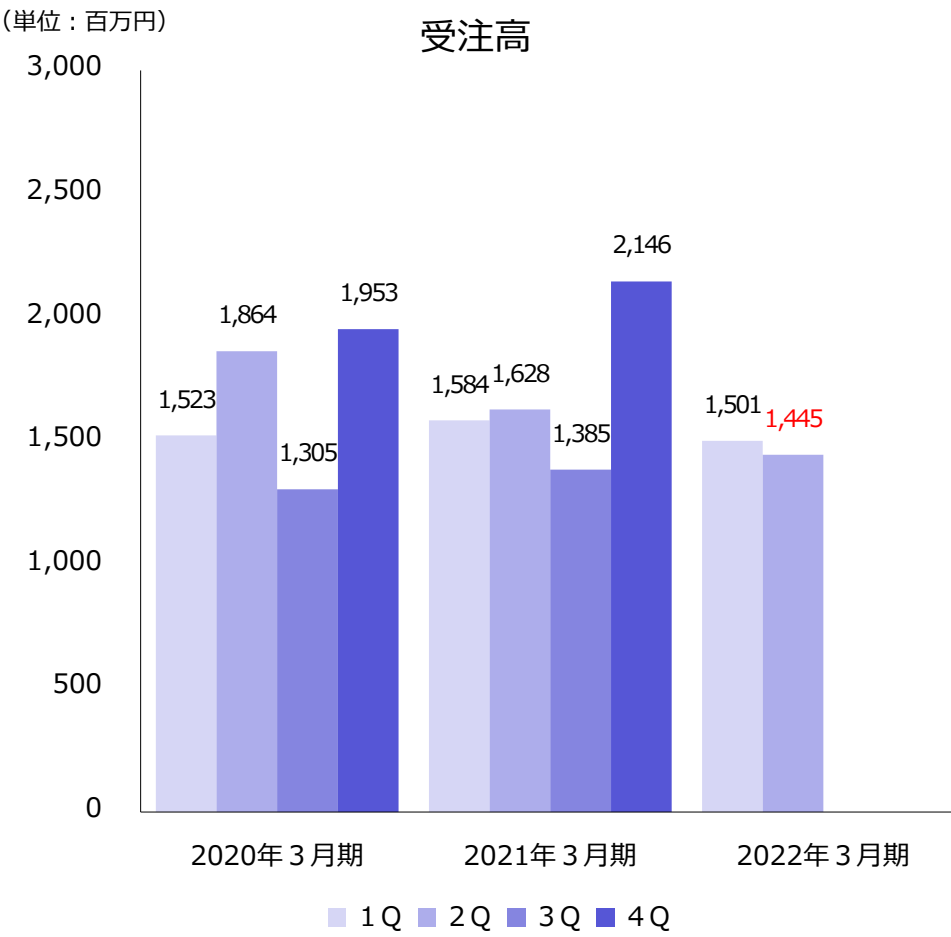
四半期業績推移 (P L)

2019年度 1 四半期の増収減益→ 2 四半期連続の増収増益→ 2 四半期連続の増収減益
 → 4 四半期連続の増収増益→ 当四半期は減収減益



四半期業績推移（受注状況）

受注高は前年同四半期より183百万円下回ったが、受注残高は過去最高



第2四半期BF別の状況

社会基盤システムBF、インターネットBFが増加

ビジネスフィールド	2021年3月期第2四半期		2022年3月期第2四半期		
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	459	15.5	283	9.8	61.8
インターネット	470	15.9	538	18.6	114.5
社会基盤システム	857	29.0	949	32.7	110.7
宇宙先端システム	1,169	39.6	1,125	38.9	96.3
合計	2,956	100.0	2,897	100.0	98.0

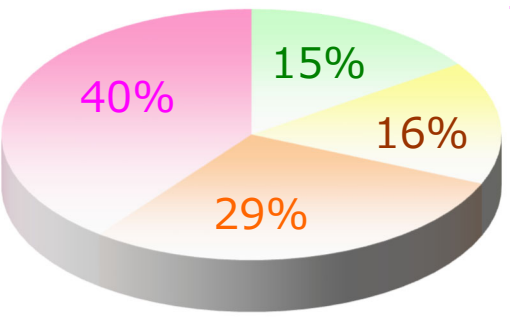
- ・ モバイルネットワークBFは、移動体通信事業者向けのサービス系の開発が大幅に減少
- ・ インターネットBFは、民間企業向けの開発が増加
- ・ 社会基盤システムBFは、官公庁向けの開発が引き続き堅調
- ・ 宇宙先端システムBFは、車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が引き続き堅調だが、宇宙天文分野の大型案件の開発が前期に終了したため減少

第2四半期BF別構成比

社会基盤システムBFとインターネットBFが拡大

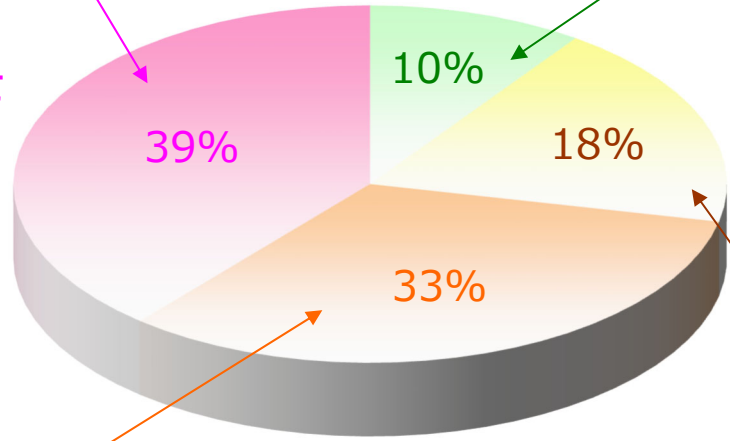
宇宙先端システムBF
車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が引き続き堅調だが、宇宙天文分野の大型案件の開発が前期に終了したため減少

モバイルネットワークBF
移動体通信事業者向けのサービス系の開発が大幅に減少



2021年3月期第2四半期

需要構造の変化に応じて柔軟に対応



2022年3月期第2四半期

社会基盤システムBF
官公庁向けが開発が引き続き堅調

インターネットBF
民間企業向けが開発が増加

第2四半期末のB F別受注状況

モバイルネットワークB Fが大幅に減少、インターネットB Fが増加

ビジネスフィールド	2021年3月期第2四半期		2022年3月期第2四半期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前期比 (%)	受注残高 (百万円)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	466	306	270	58.0	146	47.9
インターネット	484	307	517	106.8	346	112.6
社会基盤システム	1,041	1,345	955	91.7	1,461	108.7
宇宙先端システム	1,220	642	1,203	98.6	658	102.5
合計	3,213	2,601	2,946	91.7	2,613	100.4

(受注残高のうち、今期の売上高に貢献するのは2,042百万円、前期(2,091百万円)と比較し2.3%の減少)

- モバイルネットワークB Fは、移動体通信事業者向けのサービス系の開発が減少したため、受注高は大幅に減少
- インターネットB Fは、民間企業向けの開発が増加したため、受注高は増加
- 社会基盤システムB Fは、医療分野の開発が減少したため、受注高は減少
- 宇宙先端システムB Fは、宇宙天文分野の大型案件の開発が減少したため、受注高は減少

第2四半期末貸借対照表

(単位:百万円)

	2021年3月末日	2021年9月末日	増減
流動資産	6,159	5,913	▲246
固定資産	1,775	1,685	▲89
流動負債	1,220	871	▲349
固定負債	138	141	2
純資産	6,575	6,586	10
総資産	7,935	7,599	▲335
自己資本比率	82.9%	86.7%	3.8%
流動比率	504.6%	678.5%	173.9%
固定比率	27.0%	25.6%	▲1.4%

流動資産 受取手形、売掛金及び契約資産の減少、現金及び預金の増加などによる減少

固定資産 投資有価証券の減少などによる減少

流動負債 未払法人税等、買掛金、賞与引当金の減少などによる減少

第2四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	338	1,116	778
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲38	90	128
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲422	▲289	133
現金及び同等物の増減額	▲122	917	1,039
現金及び同等物期末残高	3,247	3,771	523

営業キャッシュ・フロー

売上債権の減少などによる収入増

投資キャッシュ・フロー

投資有価証券の償還などによる収入増

財務キャッシュ・フロー

配当金支払の減少などによる支出減

2022年3月期 通期業績見通し

先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

「研究開発」「データサイエンス」「人材育成」の3つのキーワード

「研究開発」

- ✓ 新型コロナ後を見据え、キーワードは、「デジタル化＝AI」、「リモート化＝IoT」、「省人化＝ロボット」とし、引続き、研究開発に注力する。
- ✓ 1社完結の研究開発以外に、大学や国の研究機関との最先端技術でのアライアンスを積極的に推進する。

「データサイエンス」

- ✓ データを軸として情報科学、統計などのアプローチから有益な知見やビジネス上の便益を見出すことで、さまざまなビジネス変革の可能性を提案する。
- ✓ ITやデータ分析などの技術だけではなく、その土台となるドメイン知識やビジネススキルを身に付け、お客様の懐に深く入り込み、お客様ビジネスに貢献する。

「人材育成」

- ✓ AIを中心に技術教育を強化。ディープラーニングに関する知識を有し、「事業に活用するジェネラリスト人材」「ディープラーニングを実装するエンジニア人材」の育成を目指す。特に、実プロジェクトでの成果を積重ねる。
- ✓ 知的労働者の成長を促す働き方改革（ワークライフバランス）にトライする。

2022年3月期業績見通し

通期業績見通しは変更なし

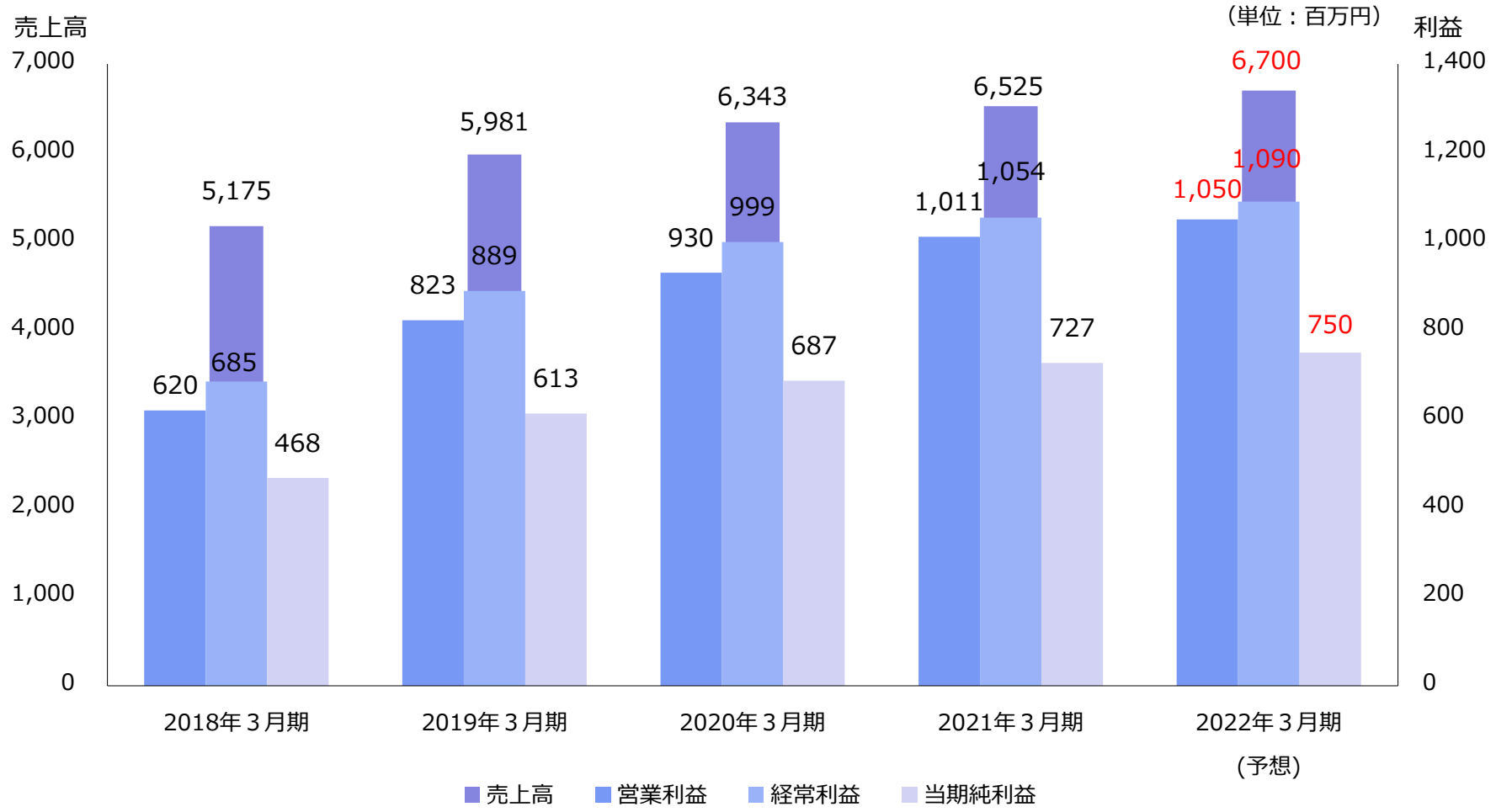
(単位:百万円)

	2021年3月期 実績	2022年3月期 業績予想	前期比 (%)
売上高	6,525	6,700	102.7
売上原価	4,676	4,720	100.9
売上総利益	1,849	1,980	107.1
販売管理費	838	930	111.0
営業利益 (営業利益率)	1,011 (15.5%)	1,050 (15.7%)	103.8
経常利益 (経常利益率)	1,054 (16.2%)	1,090 (16.3%)	103.4
当期純利益	727	750	103.1

上期は売上高及び利益が計画をやや下回ったが、全体的な商談状況は悪くなく、下期に向けて回復する見込みであることから、通期業績見通しに変更はない。

通期業績の推移

5期連続の増収増益を目指す



2022年3月期B F別業績見通し

社会基盤システムB F、インターネットB Fが増加する見込み

ビジネスフィールド	期初の想定	予想	第2四半期状況判断	予想
モバイルネットワーク	移動体通信事業者向けのサービス系の開発は前期並みを見込むが、需要構造の切替時期にあたり、全体では減少	➡	移動体通信事業者向けのサービス系の開発が大幅に減少し想定を下回る展開	➡
インターネット	民間企業向けの大型案件に不透明感があり、減少	➡	民間企業向けの開発案件が増加し、想定を上回る展開	➡
社会基盤システム	医療を含めた官公庁系の開発が引き続き堅調で、増加	➡	官公庁系の開発が堅調で、ほぼ想定どおりの展開	➡
宇宙先端システム	車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が好調、宇宙天文分野の開発も堅調で、増加	➡	宇宙天文分野の開発案件は減少傾向だが、車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が堅調で、全体では微増を見込む	➡

注力分野の状況

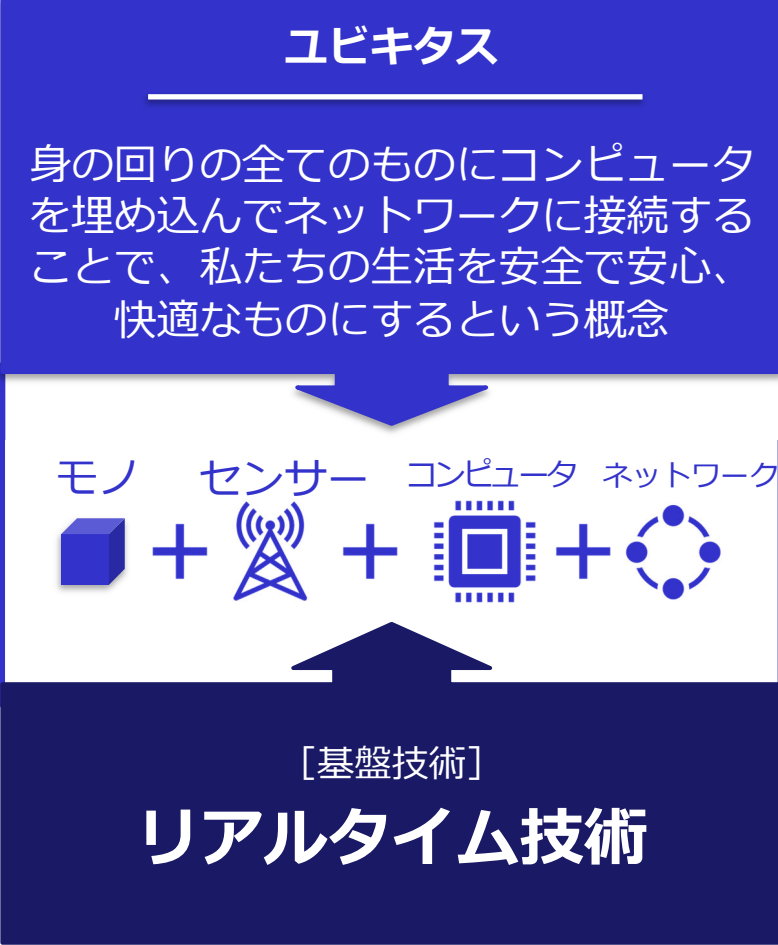
(IoT・AI・ロボット)

注力分野 | IoT・AI・ロボット

研究開発テーマ「ユビキタス (Ubiquitous)」

IoTの基盤技術はリアルタイム技術

重点テーマ



**ユビキタスを
具現化した技術**



**ユビキタスの
キーテクノロジー**



**ユビキタスの
究極の端末**

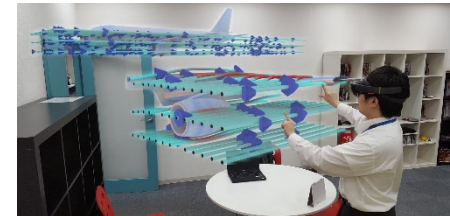


IoTのエッジデバイスを実現する技術としてMRに注目 研究開発を推進し、関連商談も活発化

米国の巨大IT企業やスタートアップがメタバース開発を加速。これらIT企業は、MR機能やMRヘッドセットを中心とした企業向けメタバース(※1)を提供したり、高精度なデジタルツイン(※2)を産み出し、企業向けにソリューションを提供するようになった。当社でもMR関連商談が増加傾向にある。

【当社の開発事例】

- MRデバイス上での数値シミュレーションのレビューシステム
- ヘッドマウントディスプレイを使ったロボットアーム遠隔操作支援システム
- 部品交換業務の効率化を目的とした遠隔作業支援システム
- 車両自動走行時のMRデバイスへの情報表示システム
- xR空間でのデジタルヒューマン関連システム
- カメラモジュールとスマートグラスを用いたジェスチャーシステム
- MRデバイスを活用した乗務員教育訓練システム
- 3Dモデルアバター生成 xRコンテンツプラットフォームシステム
- xRデバイスの操作UI/UX検証アプリ



数値シミュレーション結果のMRによる可視化
(JAXAとの共同研究)



ソーラーカーの設計・空気抵抗シミュレーション
へのMR技術の適用（東海大学への技術協力）

※1 メタバース：「メタ=超越」と「ユニバース=宇宙」を組み合わせた言葉で、オンラインとオフラインが統合された、人が活動できる仮想空間

※2 デジタルツイン：物理空間から取得した情報をもとに、デジタル空間に物理空間の双子（コピー）を再現する技術

ロボットビジネスの状況

実績 (2022年3月期第2四半期 売上高約763百万円)

← 前年同期約778百万円 ← 前々年同期約608百万円)

車両自動走行、サービスロボットの研究開発案件が堅調（ほぼ前期並み）

- 大手自動車メーカーからの車両自動走行の研究ソフトウェア案件が堅調
⇒ 車両自動走行に関連したモビリティサービスやAIなどの研究開発案件は計画変動により微減
- 大手自動車、重工、機械、電機、建築、通信、国の研究機関などが堅調
⇒ 技術的には、システムエンジニアリング、ROS・RTM（ミドルウェア）などの標準化技術、自社製品ソフトを使った製品適用開発案件が主流
⇒ 分野的には、無人搬送車、船舶、ドローン、警備、産業用ロボット、宇宙ロボットなど広範囲
⇒ 顧客層の拡大傾向が継続

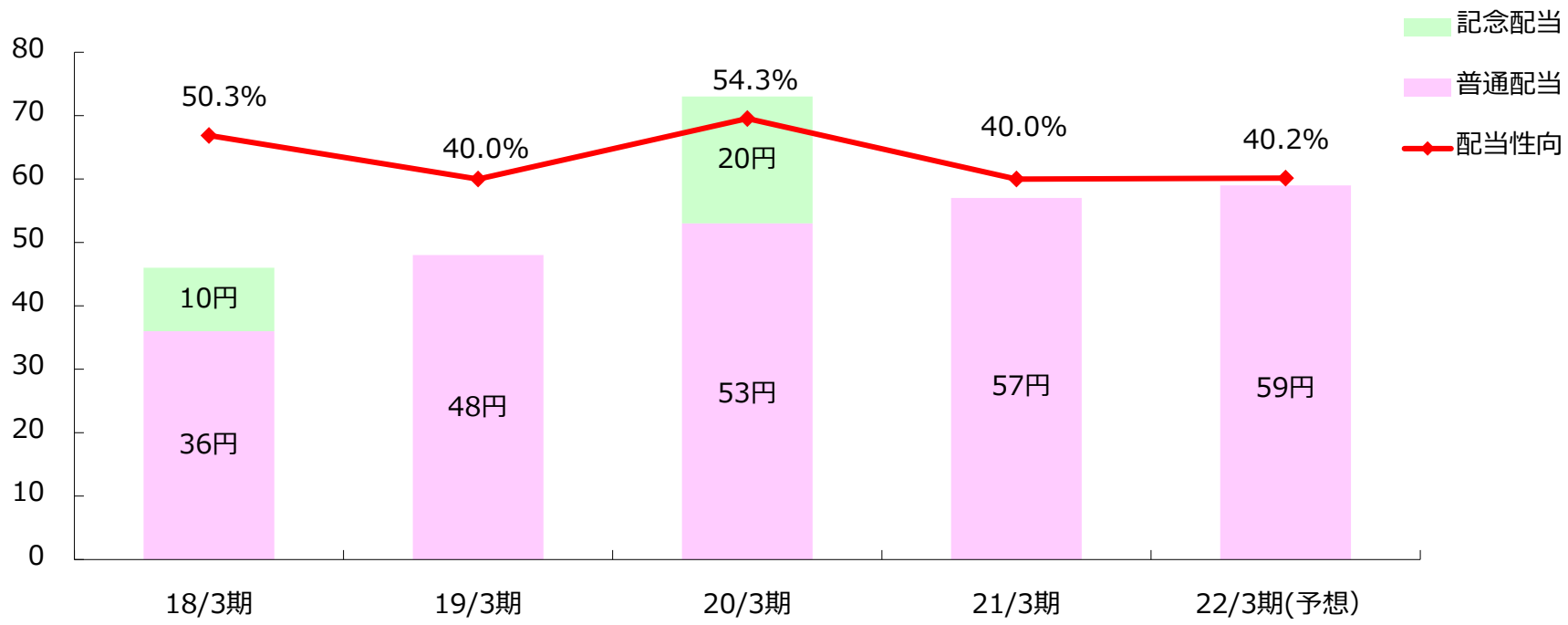
今後の方針 実用化に向けて、全方位でチャンスを見逃さない

3つの強みで展開

- ロボットソフトウェアインテグレーションビジネスの推進
⇒ ロボット標準化技術、試作機、製品化・実用化（ラストワンマイル）、教育、コンサルなど
- 製品適用ビジネスの推進
⇒ 自律移動ソフト(Rtino)、コンピュータビジョンソフト(Rtrilo)、機能安全ソフト(RTMsafety)など
製品+α（複数台制御、開発、教育、コンサルなど）のビジネス
- ロボット高付加価値化（ソフト会社しかできない）ビジネスの推進
⇒ ロボット+α（エンジニアリング、AI、MR、画像認識、RaaSなど）のビジネス

配当の方針

- 当面、配当性向は40%を目安とする。
- 2022年3月期は1株当たり59円の配当予想とする。



● この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。

● この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。

● この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものでもなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。